

キャビちゃんのちょっといい話 Vol.11

H18.6.1発行
作成：スタッフ一同
監修・発行：かだ動物クリニック
tel 0944-56-7100
fax 0944-56-7107

フィラリア症予防薬、忘れずに投薬してますか？

4月ごろから姿を見せ始めた“蚊”。5月からは予防薬の投薬が必要です。投薬前には毎年、フィラリアに感染していないか検査をしないはいけませんので、済んでいないワンちゃんはお早めに！最終投薬日は、例年通りなら11月中旬以降です。温暖化が影響し、それ以降も蚊を見るようでしたら、もう1回投薬しましょう(フィラリア症予防薬は駆虫薬のため、蚊を見なくなってから1回、投薬しなければいけません)。フィラリア症は怖い病気です。忘れずに投薬してあげましょう。運悪く、既に感染してしまっているワンちゃんは、1年中、休まず投薬しないはいけません。

待合室でアロマオイルをたいている事、皆さんご存知ですか？

先日、患者さんから「あれは蚊除け？虫除け？」と質問を頂きました。そこで！今、現在、当院で使っている種類と効果についてご紹介したいと思います。

スイートオレンジ

- *心を明るくし、気分をさわやかにリフレッシュする。
- *不安や緊張をほぐし、不眠の解消に効果的。
- *冷え性



パイン

- *神経系を活性化する。
- *筋肉痛や肩こりを和らげる
- *花粉症



ユーカリ・ラディアータ

- *抗菌・去タン・咳・にきび。



マジョラム

- *ストレス・リラックス・安眠・集中力・咳・鼻づまり・頭痛・肩こり・便秘・消化促進・生理痛。
- *淋しい時。



ラベンダー

- *心身の鎮静作用。
- *中枢神経のバランスをとり、心身の疲れを癒す。
- *防虫効果。
- *スキンケア。
- (皮膚バランスを整える。皮膚細胞成長促進作用)
- *血圧を下げる



スペアミント

- *精神的な疲れを取り元気にする。
- *車酔いによる胃のむかつきを抑える。



ユーカリ・グロブルス

- *抗ウィルス作用や殺菌、消炎、鎮痛に優れているので、花粉症や風邪による鼻水、タン、咳の軽減に役立つ。
- *集中力を促す。

以上、7種類、少しでも病院にやってくるワンちゃん・

ネコちゃんの気分が落ち着けばと、季節やその時に応じてオイルを変えます。実は、待合室だけでなく入院室でも使っているんですよ。また、いくつかのオイルを混ぜて使う事も出来るんです。ただ、使用上の注意もあるので、使用の際には注意書きなどをよく読んでお使いください。

病気シリーズ

―― 膿皮症 ――

ずいぶん暖かくなってきました。最近雨が多く、冬に比べて湿度もかなり上昇しているようです。ワンちゃん達にとってはだんだんと過ごしにくい季節となり、外耳炎や膿皮症などの病気が多くなってきます。今回はその膿皮症を取り上げてみようと思います。

< 膿皮症とは？ >

膿皮症とは皮膚疾患の一つであり、簡単に言うと毛穴の細菌感染のことです。症状は腹部や内股などの体の一部、または全身に赤いブツブツができ、ひどい場合は膿がたまることもあります。また、痒みを伴うため、自分で掻いてひどくしてしまうコ達もいます。

< 原因 >

外耳炎と同じように膿皮症もいくつかの原因が複合し

ている事が多いため、原因として1つに特定することはできません。主な原因としては高温多湿、ストレス、皮膚環境の低下などがあり、最終的には細菌に対する皮膚抵抗力の低下によって発症します。また、アレルギーや内分泌疾患などの基礎疾患がある場合は膿皮症を何度も繰り返す場合もあります。

< 予防 >

原因の所で述べたように膿皮症はいくつかの原因があるため、完全な予防が難しいと思われれます。ただ飼主さんの努力で発症率を減らす事は十分可能です。例えばエアコンなどによる湿度のコントロールをしたり、適時、シャンプーをして皮膚環境を保つようにしたりするだけでもずいぶん違います。また、日常的に皮膚をチェックすることも必要です。悪化すると治療には時間も費用もかかってしまうので、少しでも異常があれば早めの受診をおすすめします。

歯科シリーズ

一 歯周病

歯周病には歯肉炎と歯周炎があります。歯肉だけが炎症を起こしたのが歯肉炎。歯肉以外の歯根を覆っているセメント質、そのまわりの歯根膜や歯を支えている歯槽骨まで炎症が及んでしまったものを歯周炎といいます。最初は歯肉炎でも放っておくと歯周炎になります。3歳になると、ナント！8割以上の犬猫が、そのどちらかに冒されているといわれています。

歯肉炎の段階であれば、歯磨きをして歯垢を取り除けば治る事が多いため、歯磨きしてあげる事が一番です。何もしないと歯垢は毎日少しずつ蓄積していき、わずか数日で歯石になるため、まめに歯磨きで歯垢を取り除いてあげる事が肝心です。歯磨きは子犬・子猫の頃から習慣にしておくのが一番ですが、成犬・成猫の場合でも、いきなり歯ブラシを使わずにガーゼなどでやさしく磨いてあげると良いでしょう。そして少し慣れてきたら歯ブラシを使い、すみずみまで磨いてあげましょう。これだけで怖い歯周病が予防できます!!ぜひ実践してみてください。(受付で歯磨きトレーニングの資料をご用意しています)



動物にやさしい手術のために

『動物にやさしい』とは何でしょう？それは、より安全な手術である事、また出来るだけ痛みをコントロールした手術である事、そして出来るだけ少ない手術回数で治してあげる事、だと思います。それは人の医療でも同じですよ。今回はこの『動物にやさしい手術』について書いてみます。

まず、それは手術前にその動物の状態を出来るだけ詳しく把握する事から始まります。そして、その動物が手術に十分耐えられるかどうか判断します。そのためには、いくつかの検査が必要になります。例えば血液検査やレントゲン検査などです。手術中に血は正常に止まるのか、麻酔中にトラブルは起きないか、麻酔の覚めに問題はないかなどを事前に検査して調べます。以前は難しかった血液凝固系の検査も、手術前に行えるようになりました。麻酔をかけたら、その動物の状態を出来るだけ詳しく、正確に把握する事が大切です。麻酔中の動物は突発的にいろいろな事が起こります。場合によって、手術を中止する決断をしなければならぬような事もあります。細かい状態の変化を事前に察知し、何か起こる前に対処していかなければいけません。これは特に重要な事です。このためには、高性能の麻酔器と生体監視モニターが必要となります。当院では安全な手術のために、人間の新生児に使用することができる麻酔器と生体監視モニターを使用しています。ドイツ製で、人間用麻酔器では世界のトップメーカーのひとつです。

そして最も大切なのは、獣医師及びスタッフの技量の問題です。そのために、獣医師は常に新しい知識を増やし技術を勉強し続ける事が重要なのです。今の獣医学は日進月歩で進んでいます。少しでも立ち止まってしまったら、新しい情報から取り残されてしまいます。この情報と技術の習得のために、セミナーへの参加も積極的に行い、日々勉強しています。(ほとんどのセミナーが外国人講師によるもののため、東京か大阪に開催が限られているため院長不在日が多くなり、皆様にはご迷惑をおかけしております<(_ _)>。しっかり勉強し、その知識を還元できるように頑張ります。)

そして、手術設備もどんどん進化し、便利なものが開発されています。電気メスや超音波メス、手術用のドリルや手術用顕微鏡など、無くても手術はできますが、安全で正確な手術のためには必要なものです。当院では、現在3人の獣医師で手術を行っています。1人で出来る事には限界があります。3人で行う事で、より安全な手術を行えます。

そして最後に、出来る限り動物の痛みを取り除く事です。誰だって痛いのは嫌ですよ。それに痛みがある事でストレスがかかり、回復が遅くなります。今までの動物医療では、痛みのコントロールはあまりされてきませんでした。しかし、今は違います。当院では動物達のために、出来る限り痛みのコントロールをしています。

これらの事が、当院の考えている『動物にやさしい手術』です。家族同様のワンちゃん・ネコちゃんの手術を依頼される飼主さんは、とても不安だと思います。わからないことがありましたら、どうぞ遠慮なく獣医師にご質問ください。

